

「東京真田町の会」会報

# 日本タボス

平成4年12月25日



豊かな緑と自然の郷

古城緑地広場

NO.

5

# 「東京真田町の会」の新たな前進のために

会長 小林孝雄



会報「日本ダボス」第五号をお届けいたします。本会報も、真田町ご当局並びに会員皆様のご協力により、年毎に内容も充実し、会員相互の交流の使命を果しているものと喜びに堪えません。

第五回東京真田町の会総会は、去る九月二十七日、例年のとおり上野池之端文化会館で開催され、真田町からは若林町長、山宮議会議長ほか四十名に近い皆様のご出席を頂き、また真田町消防音楽隊は、山崎団長ほか十九名の隊員に遠路お越し頂き、雄壮な演奏で会場を盛り上げて下さいました。ここに重ねて深く感謝申し上げます。

今次総会におきましては、役員改選期に当り、六人の理事が退任され、代って新しく五人の方が理事に就任されました。また、五月二十二日には青壮年部が正式に発足し、若手幹事四人が本会の活性化をはかるため、今後様々な企画を担当してもらうことになりました。本会も常に新しい血を導入し、活力のある組織として、その充実強化をはかっていく所存であります。

ふるさと訪問や真田フレッシュ産直は、ふるさとと私共会員を結ぶ強い絆となるものでありますので、その規模や方法については今後想を新たに、一層の拡大を願っております。会員の皆様にも、どうか各種イベントには積極的に参加し、本会の発展と前進のためにご協力を願います。次第です。

## ふるさとと訪問に期待

真田町長 若林康朗



会に出席して、皆様のふるさとに寄せる期待の大なるものを率直に心にし、その御期待に応えられる行政の責任と使命の重大性を改めて思うものであります。

本年も、九月二十七日会員の皆様二百名に近い方々と町から五四名の出席により盛大に交流を深めることができました。心から御礼申し上げます。その際、会員の皆様からは、格別なる御厚意による真田町の福祉行政に役立ってほしいと多額な御厚志を賜り心から感謝の意を表する次第であります。

本年は、日本がいかに国際貢献するか、国中央政界に対する国民の批判、バブル経済崩壊の経済総合対策、質的平和生活大日本日本の構築等々極めて重大な試練の年でありました。

今真田町は、高齢者福祉施策の積極的な推進のため特別養護老人ホームに併せて、デイサービス、在宅介護支援センターを建設中である隣接地に「真田ふれあいの場」公認温泉プール、露天風呂等も含めた入浴保養施設、コミュニケーション施設の建設等それぞれ町の中心部役場の東側で工事が着々と進んでおります。両施設ともに平成五年

四月にはオープンします。こうした施設とともに、全町水洗化の十年計画、道路網整備、ほ場整備、公園（真田氏ゆかりの里公園、傍陽ふるさと公園）整備、ラグビーのメッカにふさわしいラグビープラント（菅平に二十ヘクタール）、宅地造成分譲等々町の二十一世紀に向けての自由時間都市構想を基本に町民の結集による自助努力の基盤整備に努めております。幸い人口も一万余人の町になるのも間近であります。

私は、一過性の時代錯誤にとらわれず歴史的な判断による町づくりを基本に、決断と実行による町政を政治哲学としております。

平成五年の真田町は、こうした施策を基に大きく様変わりいたします。来年度の東京真田町の会の「ふるさと訪問」には、是非とも会員の皆様御家族とともに大勢御参加をいただき「ふるさと真田町」の姿を御確認いただき、御指導御提言を賜りたいと今から御期待いたしております。

皆様はいよいよの御健勝と御多幸を心から御祈念申しあげあいさついたします。

東京真田町の会の皆様お元気で日々お越しのことと存じます。私は、毎年東京真田町の会の総

# 建設工事進むー温泉プール・真田の湯

教育長 松尾一久



東京真田町の会の皆様、益々ご清祥のことと遙察申し上げます。毎回、総会へご招待を頂き、感激一入でございます。さて、町民の健康増進、コミュ

ニケーションをはかる、真田温泉プール・真田の湯の建設工事は、秋空に槌音も高く、来春四月オープンを目指して、着々と進んでいます。鉄骨の骨組が終わり、プール部分は屋根瓦が載せられて、建物の全容もうかがわれ、十月末現在の工事出来高は四五%となっております。総事業費、約十三億円。運動公園北側段上の、九、三三三㎡の敷地に、総建坪一、八六二㎡。東側から温泉プール・真田の

湯・休養ふれあいゾーンの三つが棟続きに並び、延長一一四mという宏大な建物です。温泉プールは、二五m、六コーズの公認プールと、流水機能をと入れ、子ども用ウォーター滑り台のある、小プールからなっています。なお併設の機能訓練室には、回復、調整、増進のため、機器が十二台設置の予定です。真田の湯は、男女各五十名位が入浴できる大浴場で、大きな

湯船の他に、打たせ湯気泡湯・指圧スパ・全身シャワーなど、クアハウスの要素も加えられます。更に露天風呂を設け、自然と一体となって入浴を楽しむことができます。休養・ふれあいゾーンは、運動や入浴の後、家族や仲間、団体等で、ゆったりとくつろぎ、歓談、会食等が楽しめるよう、八十畳敷きの大広間と、十二畳敷きの個室三部屋が設けられます。尚、厨房施設があり、二十

五人位の喫茶、軽食がとれる食堂もできます。又、東太郎山の中腹にある源泉（毎分四〇〇ℓ・三九度）から、一九〇〇mの引湯工事も、既に八〇%の配管工事が終了しています。これから冬を迎えますが、予定通り立派に完成させ、皆様に楽しみにお越しいただけるよう頑張っております。誠に皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

## 東京真田町の会 総会に出席して

町議会議員 山宮袈裟茂



東京真田町の会の皆様、其の後いかがお過ごしでしょうか。去る九月二十七日、第五回東京

真田町の会の総会には大勢が参加させて頂き、歳ごとに親密度がまして参ります事に喜びを禁じえません。午前六時真田町役場を出発致しました。JRバスの車中では高速道が開通すると、八時頃の出発でも間に合うかなどと雑談の中で、皆様との再会に思いをいたしたら嬉しい車中でした。都内に入り、街路樹の枯れた葉や民家のベランダの鉢植の緑樹の枯れたのが目立ち、今年の夏は東京も田舎と同様に早魃であった事を知り

ました。途中二回のタイムを取り、十一時待望の池之端文化センターに到着を致しました。一階のロビーでは、早々に知人と握手して語り合う人等、大変なごやかな雰囲気の一時間でした。やがて定刻信濃の国の合唱に始まり、小林会長さんの御挨拶、会務報告の後、新旧役員の発表、退任されました理事の皆さん本当に御苦労さまでした。厚く御礼申し上げます。最近ある本の中で、東京で生まれ東京で育った人は東京が大きくなりすぎた

為に、東京が日本のすべてと思ってしまう。地方を見ようとしないそういう人が、外国に向かって日本人はと言うときに、地方に住む母親の顔が浮かび地方の友人たちの顔が浮かび、東京の人の顔が浮かんでそして日本人の想いと言うものを説明してもらいたいものだ。東京イコールジャパンではない。此れからの国際社会、日本の国際化を引っ張ってゆくのは地方で生まれあるいは地方で育った人間、そういう人たちがもつと前

面に出るべきであると、日本の伝統や文化、日本の良さと言うものをしっかりと温存して、地方と東京を見て日本を語る事が出来る人、そして永田町にも地方の意見を取り入れて政治に反映出来る人をもっと多くと、大いに気をよくして読んだ次第であります。東京真田町の会の各位に期待する事大なり、終りになりましたが、東京真田町の会の皆様の益々の御繁栄と御健康を祈念申し上げ御挨拶と致します。

## 青壮年部創立について

荻原啓治（四日市出身）



時下ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。毎年回を

重ねること親睦も増している東京真田町の会は本年九月下旬盛大に開催することが出来ました。真田町並びに理事会関係各位には大変御尽力賜わり有り難うございました。現在会員数は七〇〇名弱とのことです。是非来年度は一、〇〇〇名以上の会に成ることを願っております。どうか一層の御支援御協力賜りたく

お願い致します。さてこの程青壮年部会を創立することに成りました。この部会を通しもっと身近な会員相互の親睦を計りたいと願っております。どうか御意見等ともし事務局まで頂きたいと思致します。私も微力では有りますが努力する所存です。どうか御支援の程お願い致します。

さて課題は出来るだけ多くの方に参加してもらえらるる会を創ることです。たとえば趣味等通して集う会を創つたらどうでしょうか。ゴルフ、釣、スキー、音楽、旅行、グルメ等他にも沢山有ると思致します。又年別に同級会等行つたらどうでしょう。又会員の仲間の専門家達にお願いして法律、税務、不動産、建

築等の相談会を行なつてはどうでしょうか。又定期的に旅行会等行い一層の親睦を計れないかと思致します。いろいろ有りませうが出来ることから一日も早く実現させたいと思致します。皆様方の御支援御協力を賜りすばらしい部会に成ることを願っております。

## 遠きにありて

堀内照雄（三島平出身）



私が上京したのは、昭和二十八年三月であるから、かれこれ四十年前である。

今でこそ、上田―上野間が特急で二時間半であるが、当時は蒸気機関車で六時間の行程であった。

あれから四十年、殆ど毎年ふるさと「傍陽」へは帰っていたので「遠きにありて」はちよつとこそばゆい感じがしないでもないが、とにかくその時はただ東京と生家の往復であり今度の「東京真田町の会」を知るまでは生まれ故郷でありながら、数

十年の歳月が壁となつて「ヨソ者」の心境でふるさとの土を踏んでいた。

それが約二年前、同期生に誘われこの会に出席し、その盛大さに感動してしまつたのです。会員二百余名をはじめ遙か真田町より町当局関係者、来賓の方々等大勢見え、特にアトラクションでは「菅平太鼓」を見せて頂き、その勇壮なバチ捌きには圧倒されました。また昨年

は、佐藤光妙さんの詩吟や、わが三島平ゆかりの東芝EMI新人歌手、真田美和さんの新曲紹介等ユニークなプログラムを組まれ、実行委員の方々のご苦勞

いかばかりかと存じます。それに会報「日本ダボス」により、町の政策や行事が紹介され、その様子が手にとるように分かりました。三十周年記念カプセルのこと、登山鉄道のこと、老人対策のこ

と、温泉発掘のことなどどれをとつても人生の夢につながるこ

とばかりです。そんな「ふるさと」を持つ我々は幸せ者です。遙か遠きにありて、この幸せがいつまでも続くよう祈らずにはおられません。そしてその為に「何を為すべきか」を考える今日この頃です。

## 戦中戦後の思い出

原久雄（横尾出身）



私は旧姓を清水ともうしまして、出身は旧長村字横尾です。今は真田町の中心地になっておりますが、当時は村はずれで、中心といえは字真田でした。郷里の思い出として今でも脳裏に浮かぶのは晴れた日の四阿山、烏帽子岳が、遙か東にそびえ、神川のきれいな流れの過ぎし日の連想です。戦時中は海軍省に

就職し、やがて南方のインドネシア（当時はオランダの植民地）セレベス島のマカッサル市（現在名ウジュンバンダン）にありつた日本政府の行政府たる南西方面海軍政府という役所に出向していましたが、やがて敗戦とともに九か月程の抑留生活を終えて昭和二十一年六月に夢にみた祖国（横尾の実家）に帰ってきました。それから一年余りを経て建設省（当時は建設院）に就職し、長野県庁土木部建築課に出向となり、再び郷里に帰ってきました。その後は大蔵省に勤務することになりましたが、昭和五十一年同省を退職し、現在の北野建設東京本社に入社し現在に至っておりますが、わ

が社は真田町には仕事上大変お世話になっております。七〇才になる今日まで信州とはなんらかの形において大変深い縁のあること誠に不思議な巡り合わせだと思っております。苦しかったこと、楽しかったことの思い出は数限りなくありますが、外地から引き揚げてきた直後数年の生活は、約半世紀を経た今日に至るも、忘れ得ぬ思い出となっております。その一つに失業救済と戦後復興という名の道路工事があり現金収入を得る一つの手段となっておりました。農業手伝いのかたわら朝早くから現場まで数キロ歩いて行き、スコップ、ツルハシを振りモッコをかつぐ人夫仕事でした。一

日の労働を終えへトへトになつて自宅に帰り、ただ寝ること、そして又朝早く仕事に向かうという繰り返しは何か月か続きました。これも今になっては楽しい思い出の一つになっており、今でも足腰は丈夫です。若き日の勲章だと思っております。

## 一衣帯水の山間

神林公三郎（竹室出身）

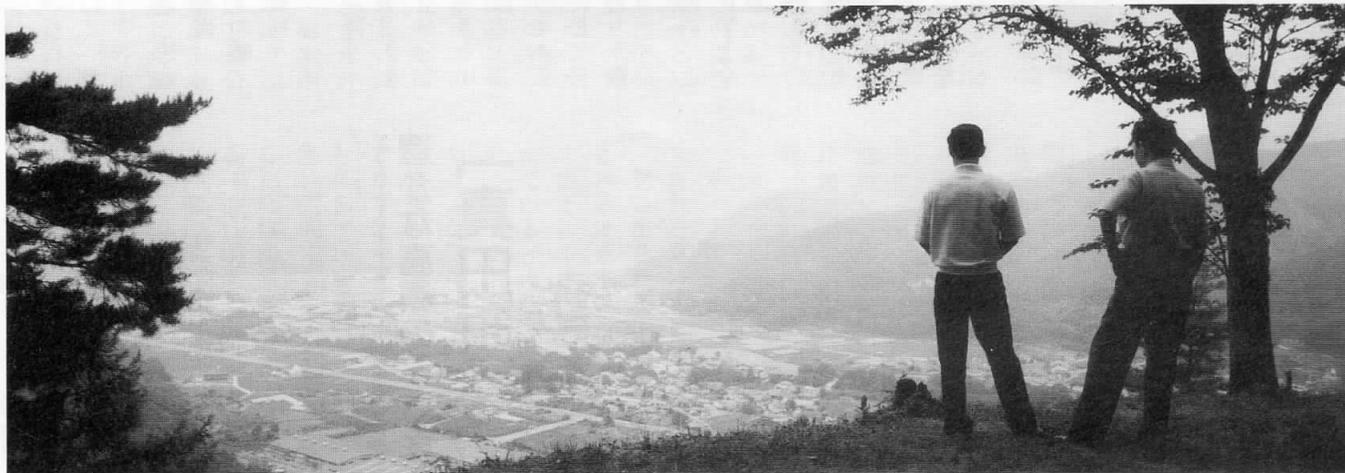


先般真田会では大へんお世話様になり楽しい一刻を過ごさせていただきました。会長の皆様様の運営にお骨折の成果があらわれまして会員の皆様方ご満足の様子が共に名残りを惜しみながら又の楽しみを約して帰ることが出来ました。真田の町は長、傍陽、本原と昔から一衣帯水の山間の

ところ共に交流に深い絆で結ばれて居り総会では同級生や先輩後輩に縁故の方又戦友にも何十年振りか逢えた、ワイドな同窓会として楽しい話し合いの場を提供していただき深謝致して居ります次第です。今後共何卒宜敷くご交誼賜わりますようお願いいたします。



本城跡よりふるさと真田町が



## ふるさと訪問に参加して



柳澤 實 (荻出身)

のさわぐ思いだ。

程なく役場に到着。新装なつた役場、庭園の手入れも行届き山国ならではの趣に心の和みを覚える。職員案内で、町長室議会議室等参観後、信綱寺の参詣戦国武将の往時を忍ぶ。

盛夏八月一日二日と両日に亘り会員による第三回目のふる里訪問が実施された。私のところでは、会のご好意に甘え、娘夫婦孫二人計五名のファミリーで参加させて戴き、親子三代に亘り真田祭りを満喫させて頂き感謝の他ありません。

熱気風呂を想わせる様な上野駅を発した列車は、下車駅上田駅へ定刻に滑り込んだ。そこには既に町より差向けられたバスが待機、町役場職員数名の皆様のお出迎えを頂いた。一行の乗り込んだ車は目的地町役場に向けひた走る。伊勢山への坂を登りつめたあたり、真田町の全景がパノラマの様に見える。懐かしい天狗岩が座し、大松山、菅平高原、烏帽子岳、それに連なる山波の稜線の果てる東南方向に窓を開き藜科方面に連なる目を転ずれば、山懐に抱かれし実相院、そして信綱寺、想い出に残る集落が点在、記憶に残るふる里は何時訪れても懐かしく血

懇親会の席もお開きになる頃は、花火の合図と共に、真田祭夜の部の幕開けとなる。後から後から繰り出す子供御輿、真田町の将来を背負うであろうこんなにも多勢の子供達が大切に大事に育まれ、その現実を目の当りにし、都市への一極集中、地方の過疎化が懸念問題視される現在、真田町の近未来は安泰の意を改めて強くした子供御輿が緑地広場へ入場を果した頃は、婦人による真田音頭、踊り場面は転回する幾重にも広がった踊りの輪、何時しか私

自身もその輪に飲み込まれ、皆さんと一体となっているではないか。そして今宵のハイライト、花火の打上げとイベントは移行してゆく。

打上げ現場近くで観られる花火。私の過去からしても数少ない体験だ。そのすざましい許りの臨場感、腹にまで響く様な爆発音、夜空を彩る閃光は鮮やかな輪となって、残映はいっ時瞬に焼きつける。この夜空を彩る響宴に私達ファミリーも酔痴れ、祭第一日を充分堪能した。

場内アナウンスが祭の終えんを告げる頃、一瞬その場を去りたい余韻が尾を引く。一種名状しがたい感情を整理するのに、いつ時を要する程魅力的な一日であった。

バスに送られ、宿泊地四阿高原ホテルに到着したのは十時頃？ オープン間もないのであろうか近代的清潔感に溢れた建物、又湯量豊かな浴槽にて一日の汗を流す。

心地よい疲労感は直ちに眠りを誘い、夢路を辿る。

翌朝は小鳥のさえずりと共に目覚める。窓越しに見える高原の朝は、残念乍ら乳白色の霧に覆われ、視界を遮る。

間近に見える落葉松林、その間隙を縫う様々と白樺、更にその根元は熊笹に覆われ、高原

の風情を失っていない。

朝食を済ませ二日目の行程に入る。菅平高原自然館にて、世界の蝶展を見学。

人工的には全く不可能と思われる程色美しい鮮やかな蝶。

開いた羽がシースルーの蝶。

真に地味な我が国の蝶種々と勉強させられる。

そして菅平を後に山を降り、長谷寺、真田本城の見学、さすが戦国武将、地の利を生かした築城の場、外敵を一望できる山城水利まであったのでは？ こんな説明を聞き驚く許りである。

そしてそば処、佐助に於て昼食を採る。店の建物は造りが農家そのものだ。扱って、ふる里訪問も最終に近づき、真田氏歴史館の見学となる。

以上二日間に亘り町を挙げて歓迎して下さった町の皆様、そして手厚くご接待して下さいました町役場、企画課、広報課の皆様有難う、有難うの気持ちでいっぱいです。

政治経済文化と総て首都圏に片寄りがちな今、真田町ならではの、真田氏一族の有形無形の文化遺産、菅平を基盤としたリゾート更にはスポーツこれを基軸に、真田町から中央へそして全国への情報発信を期待しております。

今回、ふる里訪問をこいつ

しよ戴きました東京真田町の会の皆様、本当にお世話様でした。ふる里を共にする者のみか共有できる連帯感、これがふる里だ、こんな思い出を心に刻み込んだ者だけが体験できることと思いません。

ふる里真田町に栄あれ  
ふる里真田町の皆様に幸多かれ

ふる里真田町に栄あれ  
ふる里真田町の皆様に幸多かれ

## 「真田町を」訪ねて

佐藤光妙



上田駅に着くとなにやら若者達が櫓の上でライブを楽しんでいた。

今国際的に注目を浴びている長野県、その最も歴史を誇る上田市の玄関に新しいよろこびが漂っていた。八月一日、二日と二日間に渡る真田氏ゆかりの夏まつりに合わせて東京からはるばるやって来た私達は、笑顔で

迎えて下さった真田町役場の方々に感謝の気持をいっぱいにしてマイクロバスに乗り、おいしい空気の中を途中上田城を望みながらまずは真田町役場に無事到着しました。

緑のぬくもりに包まれた真田町役場はまるで高原のホテルのように安らぎと芸術美に溢れ、外壁の色が高原の緑に映え、そう美しくモダンさを感じました。御案内頂いたそれぞれの部屋からは大きな窓越しに観る豊かな自然が絵のように美しい。

来春には、新庁舎の横に温泉も引かれると言う豊かな高原のふる里「真田町」には、野鳥や高原野菜がみずみずしく季節を潤し、初めてのふる里訪問を、やんわりと迎えてくれました。

皆さんのお父さんやお母さんを大切にして長生きしてもらいたいとおっしゃるやさしい町長さんのお人柄と真田の心意気が満ち溢れている真田町の皆様の暖かいお心とが一つになって新しい町づくりに情熱をそそがれている姿をこの真田町の素晴らしい大自然の中に感じました。

深く戦国の世を戦い貫いた凛々しき武将真田様も、さぞこの大地に心地よく安らいでいることでしょう。

年と言うびつしりと苔におおわれた桜の木が私達をとどめた。

ここでは思い出に写真を撮りましたが、やはり桜とあれば春花の盛りにもう一度ここで写真を撮りたいと思いました。

あつという間に時も過ぎて、やがて楽しい昼食のひと時には、たくさんふるふるの御馳走とアルプスの冷涼に浸りながら地酒（真田城）の美味しさは格別なものでした。

山ありて

酒はうまかや

夏まつり

ほろよい頃に町には祭りばやしにぎわい地元の子供達や都会から集まったふる里人でお祭り気分も一段と盛り上がっていました。

やがてそろいのゆかた姿の老いも若きもが輪をなして踊りお祭り会場に盆の花が咲いた。私もつられて同行の堀籠さんのリードでハッピを着せて頂き、シンドロドドンモンドロパンバン、グルリとヨイヨイト、たいへん気分よく踊らせて頂きました。

あの人は

もうダメと言うのに

山盛り酒をついだ・・・

ふわっと上を見あげるとうつつらと遠くの山が見えた。いつの

間にか夜になっていった。

突然ドーンという音が山々にひびき渡り、いよいよお祭りもクライマックス、七色の花火は東に西にロマンをきそい飛び交う音は遠くアルプスの山間に鳴り響き真田の心意気を千里のこだまがうたうドーン・・・

長時間に渡る花火大会は山の空気の冷たさに持っているものを全部体にまきつけてじっと絶えた。祭りばやしも花火の炎もすっかり吸い込んでしまった静かな夜空にさよならしてバスで四阿高原ホテルに向かった。たどり着いた頃はもう九時を過ぎていたがまだ少しおしやべりをしたい感じのひととき女三人の静かな夏の夜でした。

朝霧けぶるすがすがしい

四阿高原ホテルの

露天風呂と朝食

晴れた日は北アルプスと浅間山が望めると言うが残念なことにくもり空、けれどもおいしい空気を吸いながら早朝の露天風呂は最高でした。回りが緑一面で何もないのがいい。朝食にはサクサクした野菜が豊富に揃い高原のフレッシュジュースがたっぷり味わえ幸せでした。今度は友達や家族も一緒に過ごしたい気持ちになりました。

資料館で出会った観音さま

資料館には戦国の世を生き貫いた真田氏ゆかりのお宝がたくさん保管されておりましたが、

その中で光り輝く観音さまが優しく笑っていた。かつては勇ましく戦われた真田さまも、この観音さまの笑みにどんなにかなぐさめられたことでしょうか。

心清らかにして・・・続く旅路は、真田氏菩提寺と言われる「長谷寺」に参る。禅寺には珍しい大きな石の門とみごとなしだれ桜の木、この門構えはなんとも個性的である。しだれ桜を見ながらずつと奥に行くと、幸隆夫妻と昌幸の墓があった。その姿はなんと美しく苔色の絵具を流したように青々としていた。平和なお墓であった。

旅は道づれ

世は情

残り少ない信濃の旅に心は風のごとく千曲川へと走る。この先は誠に勝手ながらコースからはずれ皆様にお許し頂き幸いにも清水副会長さんの細かなお計らいのもとに、現地迄、御案内頂き無事千曲川のほとりにたどり着きました。ここには万葉公園があり、信濃の大自然が生んだ多くの文人や詩人の詠じた歌碑が建てられてあるその中に・・・

かつては真田十萬国の城下町「松代町」に残された日本最古

の歌「万葉集」より東歌の歌碑が建っている。

信濃なる千曲の川の細石も君し踏みてば玉と拾はむこの歌碑には今も恋する乙女が訪れ小石に思いをはせ積んで行くと言う。この歌碑のある反対側の方には真田ゆかりの松代町出身である佐久間象山の歌碑も建てられてあった。そしてこの万葉公園に添った千曲川のほとりに、作詞家山口洋子さんの「千曲川」の歌碑が美しく真白な字に書かれて千曲川を見つめて建っている。

水の流れに花びらをそっと浮かべて泣いた人忘れな草にかえらぬ恋を思い出させる信濃の旅路よこの歌は五木ひろしさんのヒット曲としてカラオケにも親しまれている。作曲家の猪俣公章さんによって作曲されたこの歌はリズムがワルツで限りなき信濃の旅情がこもり出されている。

アルプスの青と千曲川の水色そしてわすれな草のやわらかい水色がワルツになって美しく奏でる正に信濃の水色のワルツである。山口洋子さんは猪俣公章さんの曲の流れを聴いてこの歌を作詩したと言う。皆さん今度は非カラオケで歌いましょう。来年のふる里訪問を楽しみにしています。

(名詩をうたう会会長)



ふるさと訪問（鬼ヤンマの歓迎を受けて）



## 役員退任に当りての思い出

横沢清人（大畑出身）

顧みますと昭和六十三年九月十日池之端文化センターに於いて、真田町発足三十周年記念の年に当り故郷真田町の援助御協力のもとに東京・神奈川・千葉・埼玉の都三県に在住の、真田町出身者の会員五三四名のうち多数の方が出席し、尚真田町から若林助役はじめ各役職の方々の御参加を得て、盛大に東京真田町の会の創立総会を開催致しましてから今年で、満四年の歳月が過ぎ去り第五回目の通常総会も無事終了致しました。創立以来役員に選任され監事として今日に至りました。二期四年勤めさせて頂きましたが、何等会のために資することなく心苦し

い次第ですが、この度第五回の総会を以て役員を退任致しました。

退任に当り四年間の短い期間でありましたが一会員として、又役員としての感懐を述べさせて頂きたく思います。

私的な感覚でものごとを捉え、また触れている部分もあろうかと思いますが、東京真田町の会と、ふるさと真田町の発展を心から願うてのことですので、その点ご理解願ひ度いと思ひます。会則の（目的）第二条本会は、会員相互の親睦を図るとともに

故郷（ふるさと）との交流を深め相互の発展に寄与することを目的とする。とあります。この第二条について私なりの考えを述べさせて頂きたく思います。何ごとも目的意識なくして行動は起こし得ません。その目的意識があればこそ創立当初で五三四名の入会者があつたものと思われま

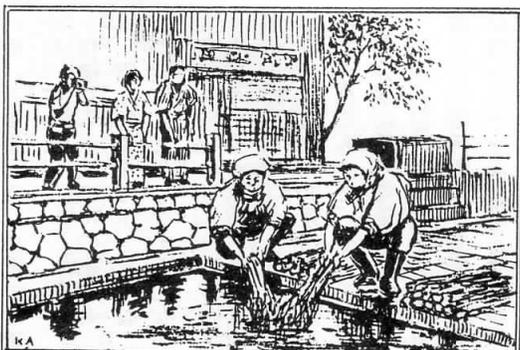
す。私は、今まで開催されました五回の総会の折に昭和十三年春上京以来五十余年振りに会つた人達が十数人おりました。街で会つてもお互いに擦れ違つてもそのまま通り過ぎたと思ひますが、私が役員として紹介され赤いリボンと名札を付けていた故か、「横沢さん」又、中には「清人さん暫くです」と、声をかけられたその瞬間、形容のし難い懐かしさと共に、半世紀も昔にタイムスリップしてお互いに顔を見合せているうちに、当時の童顔が彷彿と甦つてきて年輪を経た誰方にも、幼き日の面影はあることを知りました。そのような微笑ましい光景は各テーブルで見受けられました。五十四年振りに最初に声を掛けてくれた方は隣家の幼友達で商工会会長をしておられた佐藤忠一さんでした。その他、町議の合葉

さん、体育協会長の松岡さん等、上京以来一度も会つたことがなく五十余年、又何十年振りの邂逅の人が多勢いました。今度私が帰郷した折に再会を約しました。そのような懐かしい経験は総会に参加した方々はすべてあつたことと思ひます。尚、役員

の末席を汚させて頂いたお蔭で傍陽、長、出身の役員の方々と識りあえたこととあります。尚、驚いたことに小林会長と私の知っている共通の知人が二人いたことである。その一人は私の小学校の同級生で親友の坂口子平君が、小林会長と旧制上田中学校時代の同級生だつたとのことである。このことは、昔は隣村だつた故、あり得べきことかも知れないが、もう一人の人は、全く偶然で小林さんが海軍兵学校出身と誰方からか聞いていたので、私が小林さんに「実は私の知りあつた人で海軍兵学校出の人がおるんですよ、多分小林さんと同年輩の方で十五年前ですが、サンフランシスコのジャパンセンターにあるピアンバーをやつていた日系人のマスターに紹介された方で、その店のなじみのお客だつたんですよ」小林さんが「名前はなんと

川崎汽船(株)サンフランシスコ主席駐在員松成……とありましたよ」えつ、松成ですか彼は兵学校で私の同期生でして、遂先日彼が川崎汽船の社長になつたので海兵同期の者が集まつて祝賀会をしたばかりですよ」お互いに「世のなか広いようで狭いものですね」と、語り合い驚いた次第である。

ことの次第は昭和五十一年五月、アメリカのカリフォルニア産のハニデュエロロンを、日本に輸入するためサンフランシスコのユニオンステアアの広場に面したビルの四Fに現地法人のサンクルーフアームズインコーポレーションという会社を創り



## 21世紀に向けた信州観光の創造



## 長野県商工会連合会

カリフォルニア・アリゾナ・ネバダ三州の農園を見て廻るため約三週間サンフランシスコ・フレズノ・フェニックスに滞在し、そのメロンの輸送を川崎汽船の冷蔵コンテナで日本の港に運ぶための商談で知り合った人が松成さんである。人と人との出会いはまことに不思議なものであり真田町会に入会してはじめて知り合った人も数多くおりますが、会員相互の親睦を会則に則り大切にし度いと思っております。

集中しはじめ、山間の僻地には数多くの水力ダムが建設され、その農家は湖底に沈み更に農地の減反等と相俟って産業立国の様相を呈し経済大国へと突っ走り、その結果として農村、特に山間部に於いては專業農家は年毎に少なくなり、農業人口も著しく減少し、過疎の現象が起り社会問題にまでなりました。その点、真田町は上田市に隣接しており、上田市周辺には戦前から大手工場が進出しつつあり、勤める職場に恵まれた地域と謂えましょう。更に近年、凡ゆるレジャーの普及と共にライフエレンジヨイの時代となり、旅行にゴルフに又、若い人達のスキー人口は年毎に増えつつあり、その点真田町は広大な菅平高原があり、戦前から雪質がよく日本ダボスと称され、第一回オリ

ピック大会でアルペン（滑降）三種目を制覇した世界的スキーヤーとなったオーストリアのシュナイダーが昭和五年に來日し菅平で初滑りしたので、一躍菅平スキー場は有名となり、近年ゴルフ場も二ヶ所オープンされ夏は避暑地として又、各大学のラグビー・サッカーその他各学校の運動部の合宿等戦前に比べて新しいスポーツのハングライダー等により訪れる学生も年毎に増えつつあります。

去る一九九〇年三月十四日ハynes・シュナイダー生誕一〇〇年・來日六〇年記念祭がホテルニューオータニでシュナイダー氏の長男他、遺族の方三人も來日参加され三笠宮寛仁親王殿下の挨拶もあり盛大に行なわれ、小林会長と私が出席致しました。そして五日後の三月十九日から二十一日までの三日間に亘り菅平に於いて「ハynes・シュナイダー記念式典」が盛大に行なわれた。一行には三笠宮寛仁親王殿下も同道され、遠いオーストリアの故ハンネス・シュナイダーの遺族のお客様をエスコートされダボスの丘に建つシュナイダーの記念塔に献花され三日間に亘り記念式典のセレモニーが行なわれました。

おり業界の元老の方々と交流があり、私の所属する東京トラック事業厚生年金基金の保養所の建設計画があることを知り、年金基金の理事長及び理事の方々とコンペ及びプライベートでもゴルフする機会があったので、その都度、冬はスキー、夏は避暑の他ゴルフと四季を通じ利用価値のある、菅平高原こそ最適の保養所建設に適している旨進言した結果、実現は困難と思っておりましたが、理事会で裁決され、裏ダボスと峰の原スキー場の中間に位置したところに立派な保養所が建設された。ゴルフ場にも近く四季を通じ約二万人の年金基金の加入者及、その家族等に利用されており少しでも真田町の為になればと思っております。亦、先日思いがけなくも私と早稲田大学の同窓生で、且松本東部五十部隊と一緒に入隊し、中支派遣軍として中国で終戦を迎え捕虜生活を経て佐世保に復員するまで行動を共にした、戦友の浅沼和男君が「二十一世紀に向けた信州観光の創造」と題する本を送ってくれました。記憶にある方もあろうかと思いますが、今から丁度十年前の昭和五十七年春の全国高等学校選抜野球大会に長野高校が甲子園に出場しましたその時の校長が、浅沼和男君だったので、彼のプロフィールを紹介し

ますと、彼は四歳の時から赤倉妙高で父にスキーを仕込まれたそうでも私何回か彼とスキーに行きましたが、国体級のスキーヤーでした。その上ドライブ・スケッチ旅行釣等が趣味で且能筆家の上、個展を開く程素人ばなれた絵を画き、私が嘗て後援していた画家で一九八三年にパリで開催されたル・サロン展に入選したこともある信州出身の故北村画伯が私の家のリビングルームに飾ってある彼の油絵を見て何という絵描きさんの絵ですかと聞かれた程である。そして彼は長いこと教職にあり県内各地の高校に勤務しており長野県内各地区に詳しいこともあり、彼の才能と彼の観光に対するノウハウを見込んで、長野県商工会連合会会長牧野良三氏が地域プランナーである彼に、執筆を依頼したとのことである。彼は生来の才能を発揮し表紙の題字のカットから十四項目に亘り、タイプ・ワープロ等一切使用せず、全くの手造りの前記「信州の観光」に関する本を送ってくれたので、尠からず私も真田町の観光開発に関心があったので興味深く読んでみました。十四項目に亘り、統計資料と共に詳細に書かれていますが、その内容の個々の考察については頁数のこともあり、ほんの一部しか述べられませんが、長野県は、

主として山岳地帯であり風景と温泉に恵まれ、夏は避暑客、冬はスキー客と夏・冬が特に観光客が多く年率六十パーセント位であり県外の観光客は全体の七十パーセントを占める状況で県内の著名観光地の入込数は軽井沢高原が第一位であり、菅平高原は第五位にランクされています。観光客の誘致には交通の整備も重要課題であり、関越自動車道の延長、また北陸新幹線の開通等により真田町菅平の観光客は、交通機関の整備改善により今後増加するものと考えられる。真田町は真田氏発祥の郷として古跡の整備に努めて参りましたが、今年の五月に私共が子供の頃お屋敷と云っていた隣接地に、真田氏歴史館・真田庵が開館したので偶々この夏、私の北軽井沢の山荘に東京の友人が数人ゴルフに来たので、ゴルフは一日丈にして車で大笹街道から鳥居峠を下り真田町役場の観光課でパンフレットをもらい、真田氏の古跡を一巡し最後に本原の真田氏歴史館を私がガイド役をつとめて参観しました。

吾がふる里のよさを知人、友人に大いにPR致しました。『二十一世紀に向けた信州観光の創造』の第四項目に記載されてい

る日本観光協会の調査統計資料によると、旅行目的決定の要因はパンフレット・ラジオ・テレビ・旅行専門雑誌他各広告等のマスメディアを凌ぎ友人、知人の話、即ち「口コミ」の効果が全体の約五〇パーセントだということとです。私共東京真田町の会員の方々が夫々機会あるごとに真田町の観光の素晴らしさを、身近な友人、知人にPRすることにより、真田町の観光客の誘致に少なからず寄与できていると思います。総会のおり若林町長から公共下水道工事の整備・特別養護老人ホームの建設・第三次長期振興計画等々のお話を聞き生活環境近代化の事業が年毎に進み、半世紀前の私の子供の頃を思い出すとタイムトンネルを抜けてたような隔世の感があります。

また全国各地の山間部の農村は人口が減少している中、真田町は土地開発公社により宅地造成事業が積極的に実施され、人口が年毎に漸増しているのは、誠に喜ばしい次第です。

役員退任に当り今後真田町の益々の発展と東京真田町の会員の皆様方の御健勝を心から祈念し又、小林会長はじめ各役員の皆様方に大変お世話になりましたことを感謝申し上げますが大変なぐくなりましたが、退任の御挨拶と致します。



# 真田町消防音楽隊を迎えて 第五回総会ならびに懇親会を盛大に

清水清晴（中横道出身）



受付の賑わい

ふるさとの山々はそろそろ紅葉を迎える季節の、九月二十七日（日）東京真田町の会は池之端文化センターに於いて第五回総会を、羽田大蔵大臣の内藤秘書、井出衆議院議員の柳田秘書と真田町から、若林町長、松尾教育長、山宮町議会議長、関係各位三十余名、アトラクションご依頼の真田町消防音楽隊、山崎団長他二十名と会員百九十余名総勢二百五十余が、黄金間、

ところ狭しと一堂に会し開催しました。司会者に荒木副会長となり、総会に先立ち、消防音楽隊の伴奏で「信濃の国」を二番まで全員起立で斉唱してから総会に入る、小林会長の挨拶、ご多用中出席者に謝辞、会員の増加発足当時は五百八十四名でしたが、今では六百四十一名となりました（本日の総会で二十六名入会合計六百六十七名となる）

本年五月二十二日に青壮年部を創設、会と真田町の発展のため本日チャリティ募金を行っているから浄財をと、続いて若林町長さんのご挨拶。

あの川、あの山、あの道、この道、ふるさとを思う皆さん、この会が発足以来欠席したことがない。ふるさとの発展に努力していること、町の人口や高齢者福祉に対し、老人ホームの建設、温泉を入手しているのが町民の憩いの場として東西百四十メートルの温泉プールを来年オープンする、水洗トイレも平成二年から十年計画ですすめている町の発展の為に皆さんが自信と誇りを持って町にしてゆくとの事を拝聴しました。

次に総会の議事に入り、規約第九条第二項により（総会および理事会は会長が招集し、その議長となる）会長が議長となり

議案一・平成三年度会務報告は、清水副会長が主な二項目



懇親会会場風景



真田町消防音楽隊「信濃の国」

が、関係資料と照合の結果相違ない事を認め、議長採決全員拍手で賛成

議案四・平成四年度事業計画(案)は山口理事が

一、会報「日本ダボス」第五号の原稿を募集・今年のおふるさと訪問に多数の参加をお願いします。

一、フレッシュ産直(真田町の特産品)への協力、青壮年部を中心とする各種行事の実施などを報告

議案五・平成四年度予算(案)

一、真田町から多額の補助金を頂いています御礼、今度発行する「日本ダボス」に広告を掲載して会の運営にご協力をお願いしますと、

議案六・役員改選については、会長がみずから

一、退任理事六名と新任理事五名、青壮年部五名の氏名を讀み上げて提出し可決された後、

退任理事さんの労苦に感謝し、新任理事さんの活躍を依頼しました。

(右記の方々のお名前は会報に記載されていますご参照下さい)

総会も無事に終了し、つづいて懇親会になる。司会者の来賓

の紹介、来賓祝辞、祝電の披露、坂口明区長会長の乾杯で始まる。

アトラクションは真田町消防

音楽隊で、真田町音頭、故郷、信濃の国ほか数曲を演奏していただきました。会場は、ウソ十年振りであう人、幼なじみで

テールを囲み、話が山積みとなった、あつと言つ間に午後三時の閉会時間となり、チャリテイ募金の贈呈式となり、若林町長と小林会長が壇上へ会長が本日会員の皆さんから頂いた浄財金、総額三十四万六百元を町の福祉事業にお役立てくださいと贈呈しました。

若林町長は「大勢の方の心温まるお金、私にしてみれば夢の金額、何百倍何千倍に使わせて頂くことをお約束してお礼のことばにします」と。

消防音楽隊に演奏して頂いて「ふるさと」(兎追ひしかの山)を全員輪になって大合唱、つづいて真田町長寿会会長、武者亀氏に、当会は横沢理事にお互いに相手方の発展と健康を祈念して、文化センターが割れんばかりの大声で万歳三唱し、塩沢副会長の閉会の挨拶で総会並びに懇親会すべての行事が滞りなく終了しました。真田町からリングをお土産に、お互いが再会を約して帰路につきました。

『長野県人会連合会発行「信州の東京」十一月号にも掲載してあります。』



## 第五回

# 東京真田町の会 総会に出席して

丸山廣義(曲尾出身)

信濃の国は……と云う歌声で始まった東京真田町の会、出席して本心によかったと思います。何十年ぶりに会った友、そして先輩、後輩と、顔と名前が一致せず、話している間にその面影を想い出し、あちら、こちらで奇声が上がったりしている場内、幼い心にやきついた故郷、そして語り合いのうちに、その発展を知り、健康でこうして語り合いの中にある自分は幸せと思ひ、つい心に翼がある様にさへ思うのです。ある雑誌にこんな詩がのっていたことを思い出しました。引用しますと、

心に翼があれば  
けっこう生地獄も味がある  
限りある人生の  
限りある時間を  
翼があれば心ゆくまで  
飛びまわる……

そして同じ日本に生まれ、同じ故郷に育ち、今心に翼がある様に自由に語り合うことが出来た



ふるさと(兎追ひしかの山)

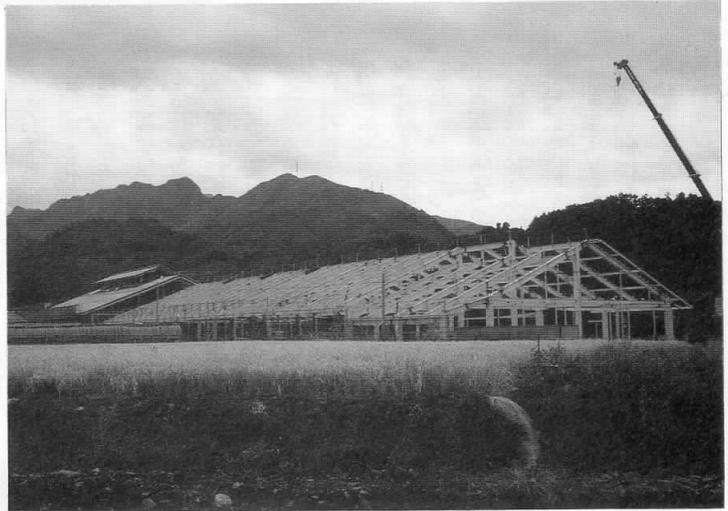
# カメラアイ

## 1992

この一年を振り返ってみると・・・



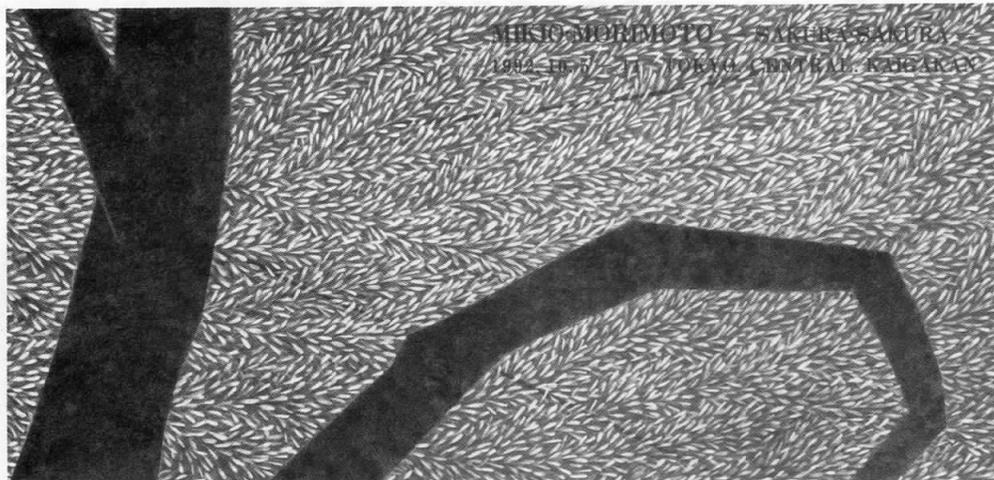
・ 9月12日親子すくすくカーニバル開催  
「ねじ」づくりに挑戦



・ 待望の「ふれあい真田館」(温泉プール)が着工'93年春にオープン



・ 5月17日御屋敷歴史館の隣に真田庵がオープン  
公園の完成を祝って三ツ頭獅子も舞いました



MIKIO MURIMOTO - SAKURA SAKURA  
1982.11.5 - 11.13 TOKYO CENTRAL HALL

10月5～11日 第15回森本幹生個展 「SAKURA・SAKURA」開催

## 東京真田町の会平成3年度決算報告書

自平成3年4月1日  
至平成4年3月31日

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
前期繰越金	341,525	341,525	総会懇親費	2,000,000	1,606,950
年会費	600,000	322,000	会報発行費	500,000	535,600
総会懇親費	1,250,000	1,363,000	名簿印刷費	0	0
真田町補助金	500,000	500,000	総会資料		37,200
広告費	500,000	400,000	事業費	300,000	237,050
寄付金等	240,000	180,000	会議費	200,000	17,800
雑収入	168,475		事務通信費	250,000	218,903
利息		7,307	印刷費	300,000	43,850
			雑費	50,000	3,489
			渉外費		327,940
			交通費		9,370
			手数料		2,781
			次期繰越金		72,899
	3600,000	3,113,832		3,600,000	3,113,832

上記の通り収支決算報告いたします。

平成4年5月30日 会計 三井 芳郎 ㊞  
会計 塚田 恒雄 ㊞

上記の決算報告書は関係資料と照合の結果相違ないことを認めます。

会計監査 横沢 清人 ㊞  
会計監査 塩沢 和政 ㊞

## 東京真田町の会平成4年度事業計画

- 1) 会報「日本ダボス」第5号の発行
- 2) ふるさと訪問の実施
- 3) フレッシュ産直への協力
- 4) 青壮年部を中心とする各種行事の実施
- 5) 真田町との交流促進
- 6) その他

## 東京真田町の会平成4年度予算

自平成4年4月1日  
至平成5年3月31日

(単位：円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期繰越金	72,899	総会懇親会費	2,000,000
年会費	600,000	会報発行費	500,000
総会費	1,500,000	会議費	50,000
真田町補助金	500,000	事業費	300,000
広告費	500,000	事務通信費	250,000
寄付金	250,000	印刷費	300,000
雑収入(利子)	177,101	雑費	50,000
		渉外費	150,000
		名簿発行費	
		次期繰越金	
収入合計	3,600,000	支出合計	3,600,000

# 今年の新入会員さん 30名

(平成4年10月1日現在) (順序不同)

氏名	住所	出身区	氏名	住所	出身区
堀内 ひろ	葛飾区	中横道	加茂谷 篤子	座間市	長
吉川 栄子	荒川区	中組	堀内 賢	春日部市	下横道
斎藤 静江	小金井市	横尾	丸山 義彦	江東区	曲尾
金子 清春	多摩市	田中	丸山 豊子	江東区	
三井 史子	君津市	中組	石巻 伸夫	台東区	曲尾
真下 幸江	東葛飾郡		石巻 千恵子	台東区	
末広 宮子	印旛郡白井町	十林寺	坂口 とみ子	足立区	中組
内海 宏光	習志野市	大庭	上原 佳和	柏市	中横道
神林 祝子	川口市	真田	石巻 政治	葛飾郡	曲尾
佐藤 宏次	蓮田市	田中	石巻 輝美	葛飾郡	曲尾
上田 貴美子	横浜市	大畑	三井 より子		大庭
山岸 豊夫	大和市	本原	平田 金子	東久留米市	中組
山崎 静次	沼津市	横尾	林 良	松戸市	曲尾
桜 英子	北相馬郡藤代町	大畑	佐藤 けさか	足立区	下横道
北原 和佳	新宿区	上原	小林 富江		中組

## 「東京真田町の会」運営組織

会 長	小林 孝雄	副 会 長	清水 清晴	荒木 孝一	塩沢 和政	企 画 担 当	三井 芳郎	田中 恒夫	大久保治夫	長屋 京子
会 報 担 当	清水 清晴	事 業 担 当	塩沢 和政	飯島 義道	石垣 節子	小 林 正 子	三 井 芳 郎	飯島 慶三郎	倉 島 保 男	塚 田 恒 雄
深 町 共 栄	堀 籠 道 子	部 会	東 京 東 支 部 (含千葉)	塩 沢 和 政	石 垣 節 子	青 壯 年 部 幹 事	山 口 元 彦 荻 原 啓 治 堀 内 寿 美	小 林 正 子 塚 田 健 二 横 沢 由 明		
東 京 西 支 部	倉 島 保 男	埼 玉 支 部	堀 籠 道 子	山 口 元 彦	深 町 共 栄					
神 奈 川 支 部	田 中 恒 夫			飯 島 義 道						

日本タボス第五号への広告をお願いしましたところ、多数の方々に協力いただきありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

### 広告御礼

第五回総会会場に於てチャリティ募金をしましたところ、多勢の皆様から寄付いただきました。総額三十四万円也は真田町の福祉の一部に寄付させていただきます。ここに報告と御礼を申し上げます。

### チャリティ募金御礼

井出 正一様	羽田 孜様	坂口 豪様	矢島 五郎様	上原 辰夫様	田中 静江様	横沢 正晃様	飯嶋 義道様	石垣 節子様	秦 志づお様
一〇、〇〇〇円	一〇、〇〇〇円	一〇、〇〇〇円	一〇、〇〇〇円	一〇、〇〇〇円	一〇、〇〇〇円	二〇、〇〇〇円	二〇、〇〇〇円	二〇、〇〇〇円	五〇、〇〇〇円

### 寄付御礼

平成四年度、現在までの多大の寄付ありがとうございました。

## 「東京真田町の会」役員名簿

○印新任理事

職名	氏名	〒	住 所	☎
会 長	小林 孝雄	233	横浜市港南区日野4-45-5	045-843-8041
副 会 長	清水 清晴	201	狛江市東野川3-12-2	03-3489-0763
"	荒木 孝一	188	田無市向台1-7-30	0424-63-7209
"	塩 沢 和政	276	八千代市大和田新田1074-37	0474-50-3348
会 計	三井 芳郎	156	世田谷区船橋1-48-31	03-3482-9333
"	田中 恒夫	240	横浜市保土ヶ谷区峰岡町1-93	045-332-3982
理 事	○ 飯島 義道	230	横浜市鶴見区梶山2-38-11	045-571-5055
"	○ 飯島 慶三郎	180	武蔵野市吉祥寺東町2-33-18	0422-21-8594
"	石垣 節子	114	北区十条仲原3-21-7	03-3900-8633
"	○ 大久保 治夫	182	調布市柴崎1-7-1-2-103	0424-85-2477
"	小林 正子	349-02	埼玉県南埼玉郡白岡町小久喜776-11	0480-92-1084
"	塚田 恒雄	277	柏市西山1-11-18	0471-75-0823
"	長屋 京子	154	世田谷区弦巻5-14-21	03-3428-4194
"	○ 深町 共栄	366	深谷市上紫町西5-7-82	0485-72-7150
"	堀 籠 道子	336	浦和市内谷3-4-7	0488-63-1534
"	山口 元彦	184	小金井市中町2-19-6	0423-83-6555
監 事	○ 倉島 保男	168	杉並区和泉町3-60-26	03-3328-1512
"	関 谷 義久	211	川崎市中原区小杉町1-403-4 ハロス103	044-711-0055

## 「青壮年部」役員名簿

職名	氏名	〒	住 所	☎
理事・部長	山口 元彦	184	小金井市中町2-19-6	0423-83-6555
理事・幹事	小林 正子	349-02	埼玉県南埼玉郡白岡町小久喜776-11	0480-92-1084
幹 事	荻原 啓治	168	杉並区和泉4-42-32 方南町ハイツ301	03-3315-5930
"	塚田 健次	363	桶川市若宮1-8-19-203	0487-87-3209
"	堀 内 寿美	227	横浜市緑区長津田2-20-11	045-981-6681
"	横 沢 由明	176	練馬区豊玉上1-16-14	03-3991-0067

## 退任理事 長い間ご苦労様でした

荒木 広之 様 上原 辰夫 様 田中 芳明 様  
森本 幹生 様 横沢 清人 様 横沢 正晃 様

### 編集後記

立派な原稿をお預かりして、皆様方のお陰で「日本ダボス」第五号を発行することが出来ました。締め切り近くなって速達郵便でご投稿くださった方もございました。ありがとうございました。

今年も八月に第三回ふるさと訪問を実施し大変にお世話になってまいりました。

会報も五号となりましたが、何分にも素人の編集です。出来の点はお寛容の程をお願いします。お気付きの点がありましたら、どしどしお聞かせ下さい。お待ちしております。「東京真田町の会」の年会費は千円です。入会金はありません。

ご希望の方は会費千円を、郵便振替用紙で「東京1-255577」東京真田町の会へお送り下さい。現在入会者で平成四年度までの会費未納の方はお早めにお振り込み下さいお願いします。

### 写真提供

真田町役場  
塩崎 武男  
柳 沢 實  
清水 清晴

### MEMORANDUM

九月三日に会員の皆様（六百四十四名）に総会のご通知をお出ししましたところ、総会の前日（九月二十六日）までに、出欠のご回答を下さった方が三百八十八名で、六十二・二%無回答の方

二百五十六名で、三十九・七%でした。この統計は事務局で毎年とっています。お返事を下さる方はいつもおなじ方が多いようです。今度は是非ご回答をお願いします。

### 第六回総会

平成五年九月十八日（土）

港区南青山  
はあといん乃木坂  
（健保会館）で  
開催します お忘れなく

## CIRCLE FANTASIA

サークルファンタジア



# 祝 東京真田町の会 一会報5号

広げましょう 同郷の和と輪

## 東京で躍進を続ける 真田不動産グループ

業務内容

1F ●(特選輸入洋品) WAKO ショールーム ☎620-2411

●総合不動産業 株式会社 真田不動産 ☎620-2511

2F 貸事務所(歯科医院)

3F  
} IMPERIAL HORIUCHI (賃貸マンション)

6F

### 株式会社 真田不動産

代表取締役/堀内 政

(真田中学校上・元あさひ堂出身)

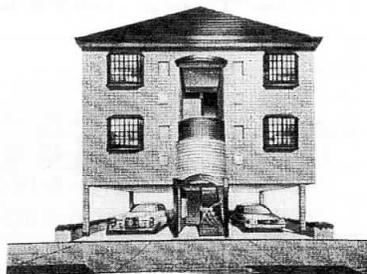
東京都足立区綾瀬6-30-8  
〒120(WAKO真田ビル1階)

自宅:足立区青井4-4-10  
☎03-3840-3211

※在京真田町の会のみなさん、  
分譲等のご相談承ります。



WAKO 真田ビル(当社ビル)1988年完成



IMPERIAL・HORIUCHI<NO3>1992年完成

## これからも皆様と共に。



## ハイテクに挑戦する



高い技術水準と優れた環境の浅間テクノポリスの中核都市「上田」。  
その上田市周辺に山洋電気は5工場を有し、世界のトップレベルのハイテク商品を全世界に送り出しています。  
上田事業所には真田町から約130名の方々のご協力を戴いております。21世紀を担う主役——それはあなたです。

### 山洋電気株式会社

代表取締役社長 横 沢 新二郎 (真田町荒井出身)

上田事業所 長野県上田市緑が丘1-1-7 TEL0268-22-8585(大代表)  
本 社 緑が丘工場、塩田工場、築地工場、青木工場、富士山工場  
東京都豊島区北大塚1-15-1 TEL03-3917-5151(大代表)

# 祝 東京真田町の会 一会報5号一

## 広げましょう 同郷の和と輪

<p><b>東京真田町の会</b></p> <p>副会長 <b>荒木孝一</b> (真田出身)</p> <p>〒188 東京都田無市向台町一七七一三〇 TEL (〇四二四) 六三二七二〇九</p>	<p><b>国際浮出印刷株式会社</b></p> <p>代表取締役 <b>飯嶋徳麿</b> (中組出身)</p> <p>TEL (〇三三三) 九二一八七七</p> <p>川口市芝四八七九 TEL (〇四八二) 六五一二三七四</p>	<p>土地・建物・測量・登記 <b>飯嶋測量事務所</b></p> <p>土地調査士 <b>飯嶋義道</b> (中組出身)</p> <p>横浜市鶴見区梶山二一三八一十一 TEL (〇四五) 五八一〇三二四 TEL (〇四五) 五七一五〇五五</p>	<p><b>三建設株</b> 代表取締役 東京真田町の会</p> <p>理事 <b>飯島慶三郎</b> (下原出身)</p> <p>〒180 武蔵野市吉祥寺東町二一三三一八 TEL (〇四二二) 二二一八五九四</p>	<p><b>三東フォーム株式会社</b></p> <p>代表取締役 <b>大久保照男</b> (大日向出身)</p> <p>本社 東京都新宿区舟町七 織田ビル TEL (〇三三三) 三三五一九七六一代 FAX (〇三三三) 三三五一九七七六三</p>
<p>(株)杉生電機 取締役 東京真田町の会</p> <p>理事 <b>大久保治夫</b> (大日向出身)</p> <p>調布市柴崎一七七一―二二一〇三 TEL (〇四二四) 八五一二四七七</p>	<p>有限会社 オフテルス</p> <p>取締役会長 <b>小林孝雄</b> (曲尾出身)</p> <p>横浜市港南区日野四丁目四五―五 TEL (〇四五) 八四三二八〇四一</p>	<p>かぎりなく美しく みんなで楽しくうたおう 名詩をうたう会</p> <p>代表 <b>佐藤光妙</b></p> <p>東京都世田谷区成城五一七七一四 電話 (〇三三) 三七八九二二〇二九</p>	<p><b>勝田電設工業株式会社</b></p> <p>代表取締役 <b>塩沢和政</b> (大日向出身)</p> <p>東京都江戸川区西小松川町三七番二号 TEL (〇三三) 三六五二一八六七六代</p>	<p>長野県人会連合会評議員 狛江市長野県人会顧問 東京真田町の会副会長</p> <p><b>清水清晴</b> (中横道出身)</p> <p>東京都狛江市東野川三十一二―二 TEL (〇三三) 三四八九一〇七六三</p>
<p>三和梱包興業株式会社 三和興産株式会社</p> <p>代表取締役 <b>上原辰夫</b> (中横道出身)</p> <p>〒355 埼玉県戸田市新曾南三丁目五番二十号 電話 (〇四八四) 四二一四六一代、四番 FAX (〇四八四) 四二一四六五番</p> <p><b>営業種目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般貨物運送事業</li> <li>自動車運送取扱事業</li> <li>輸出及国内梱包事業</li> <li>安田火災海上保険代理店</li> <li>自動車保険、火災、総合保険</li> <li>アイ・エヌ・エイ生命保険(株)募集代理店</li> </ul> <p>自宅 浦和市曲本一丁目七番十一号 TEL 〇四八八―三九一三三五六 FAX 〇四八八―三九一三三五七</p>				

# 祝 東京真田町の会 一会報5号一

広げましょう 同郷の和と輪

## (株)東京マネジメント・コンサルタンツ

〒231 横浜市中区日本大通18マースクビル  
(大機橋通り)

TEL 045(662)1201 ; FAX 045(662)1414

日本では高齢化社会の到来が、世界に前例のない速さで進行しています。このため国民の保健衛生に関する施策と病院・診療所の経営が激しい変革の波にさらされています。こうした状況の中で、当社はお医者さんが不安なく診療に専念できるよう、病医院の経営面をサポートするため、首都圏全域にわたりコンサルティング活動を行なっています。

(所属グループ)

社団法人日本医業経営コンサルタント協会  
神奈川県支部

(支部長) **関谷 義久**  
(戸沢出身)

T K C 全国会 神奈川県 (会長) (自宅〒211 川崎市中原区  
小杉町1-403-4パパス)

パートナー制による税理士等の事務所 (代表パートナー) (TEL 044(711)0055)

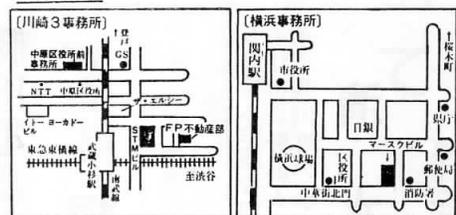
## (株)TKC東京パートナー会計事務所

〒211 川崎市中原区小杉町1-403  
武蔵小杉STMビル(武蔵小杉駅正面)  
TEL 044(733)1101 ; FAX 044(733)1102

「宇宙から見る地球は青く美しく国境はなかった」スペースシャトルの宇宙実験から戻った毛利衛さんの帰還第一声は印象的でした。

世界各国の政治経済動向が私達の生活に直接影響を及ぼすまでに経済はグローバル化しています。景気の好・不況の繰り返しの中で、不況時に真先にその直撃を受けるのが中小企業です。当事務所はその中小企業の基盤強化と経営発展に貢献することを信条として活動しています。

所在地図



## 八洲グループの車は今日も 信濃路を走っています

### 八洲輸送株式会社

代表取締役 **横澤 正晃**  
(大畑出身)

埼玉県和光市下新倉4610-1  
TEL 048 (466) 9751

(グループ会社)

(株) ヤ シ マ  
(株) トウキョウ・ヤシマ  
(株) オオミヤ・ヤシマ  
(株) ワイエムエンタープライズ  
旭 運 輸 (株)

真 和 商 事 (株)  
(株) ミ ツ ワ  
富 士 興 業 (株)  
(株) ジェイ シイ エル  
(株) タマ・ミルキーウェイ

東 陽 運 輸 (株)  
(株) イ ケ シ ョ ク  
(株) コーエイアソシエイツ  
協同組合八洲物流グループ

# 祝 東京真田町の会 一会報5号

広げましょう 同郷の和と輪

峰岡町一丁目町内会

衛生部長

**田中恒夫**  
(横尾出身)

事務所〒240 横浜市保土ヶ谷区峰岡町一―一八  
電話 ○四五(三三五)二六八一番  
自 宅〒240 横浜市保土ヶ谷区峰岡町一―九三  
電話 ○四五(三三三)三九八二番

東京真田町の会

理事 **塚田恒雄**  
(横尾出身)

千葉県柏市西山一―十一―一八  
TEL (〇四七) 七五―〇八三三

ロシア料理 渋谷ロゴスキー  
レストラン

副社長 **長屋京子**  
(菅平出身)

本館 渋谷駅南口日本交通公社前大和田ビル2F  
渋谷区桜丘一六―一三 大和田ビル2F  
TEL (〇三) 三四六三―一九一

埼玉工業大学

工学部電子工学科教授

東京真田町の会

理事 **深町共榮**  
(田中出身)

〒366 深谷市上柴町西五―七―一八二  
TEL (〇四八五) 七二―七―一五〇

東京真田町の会

理事 **堀籠道子**  
(中横道出身)

〒336 浦和市内谷三―一四―一七  
TEL (〇四八八) 六三―一―五三四

新お茶の水法律事務所

弁護士

**山口元彦**  
(横沢出身)

〒101 千代田区神田淡路町一―九―一  
TEL (〇三三) 三二五五―七九六一  
FAX (〇三三) 三二五五―七九六〇

株式会社東部財務情報センター  
堀内税務会計事務所

**堀内茂雄**  
(中横道出身)

〒130 東京都墨田区業平四―九―三  
TEL (〇三三) 三六二五―二二九一  
FAX (〇三三) 三六二二―一〇一六四

ヤマト商事株式会社

代表取締役

**柳澤義祝**  
(秋出身)

事務所 東京都文京区本郷二―三―一四  
TEL (〇三三) 三八一三―一四〇五  
自 宅 東京都狛江市猪方三―二六―二〇  
TEL (〇三三) 三四八〇―八八三九

中央建設国民健康保険組合理事

社会保険  
労務士

**三井周**  
(大庭出身)

事務所東京都江戸川区東葛西七―一六―一四  
TEL (〇三三) 三六八九―三一九一  
FAX (〇三三) 三六八九―三一九九  
自 宅 東京都江戸川区篠崎町三―一九―九  
TEL (〇三三) 三六七七―三六三六

東京真田町の会

会計理事 **三井芳郎**  
(大庭出身)

世田谷区船橋一―四八―三一  
TEL (〇三三) 三四八二―九三三三

アートメディア木精会主宰

洋画家 国画院 **森本幹生**  
(入軽井沢出身)

川崎市中原区小杉陣屋町一―六―八  
TEL (〇四四) 七三三―〇二六七

育ててください

ふるさと結ぶホットラインに

\*ふるさと宅急便  
\*特産物の開発・販売

長野県小県郡真田町大字長七―七八番地の一

財団法人 **真田町振興公社**

理事長 **若林康朗**

TEL (〇二六八) 七二―二二〇〇  
内線二六一

## 真田町民憲章

私たちは、豊かな自然に恵まれた真田町の町民です。

私たちの真田町は、真田氏発祥の郷であり、たくましい町民の不屈の精神によって大きく発展し続けている町です。

私たちは、真田町の町民であることに誇りと生きがいを持ち、よい町民となるために、町民憲章を心のよりどころとします。

- 1 自然を愛し環境を整え美しい町をつくります。
- 1 生産に励み豊かなくらしのある町をつくります。
- 1 お互いに助け合い暖かい心がかよう町をつくります。
- 1 からだを鍛え心を豊かに健康な町をつくります。
- 1 教養を高め創意あふれる清新な町をつくります。

---

日本ダボス (平成4年12月25日発行)

発行 東京真田町の会 会長 小林孝雄

編集委員 清水清晴 三井芳郎 飯島義道  
長屋京子 石垣節子 小林正子

印刷 (有)中沢活版所